

看護職による がん患者・経験者の就労支援について

がん患者・経験者の就労支援のあり方に関する検討会
 構成員 川本利恵子
 (公益社団法人日本看護協会 常任理事)



公益社団法人 **日本看護協会**
 Japanese Nursing Association

がん患者が抱える就労上の困難

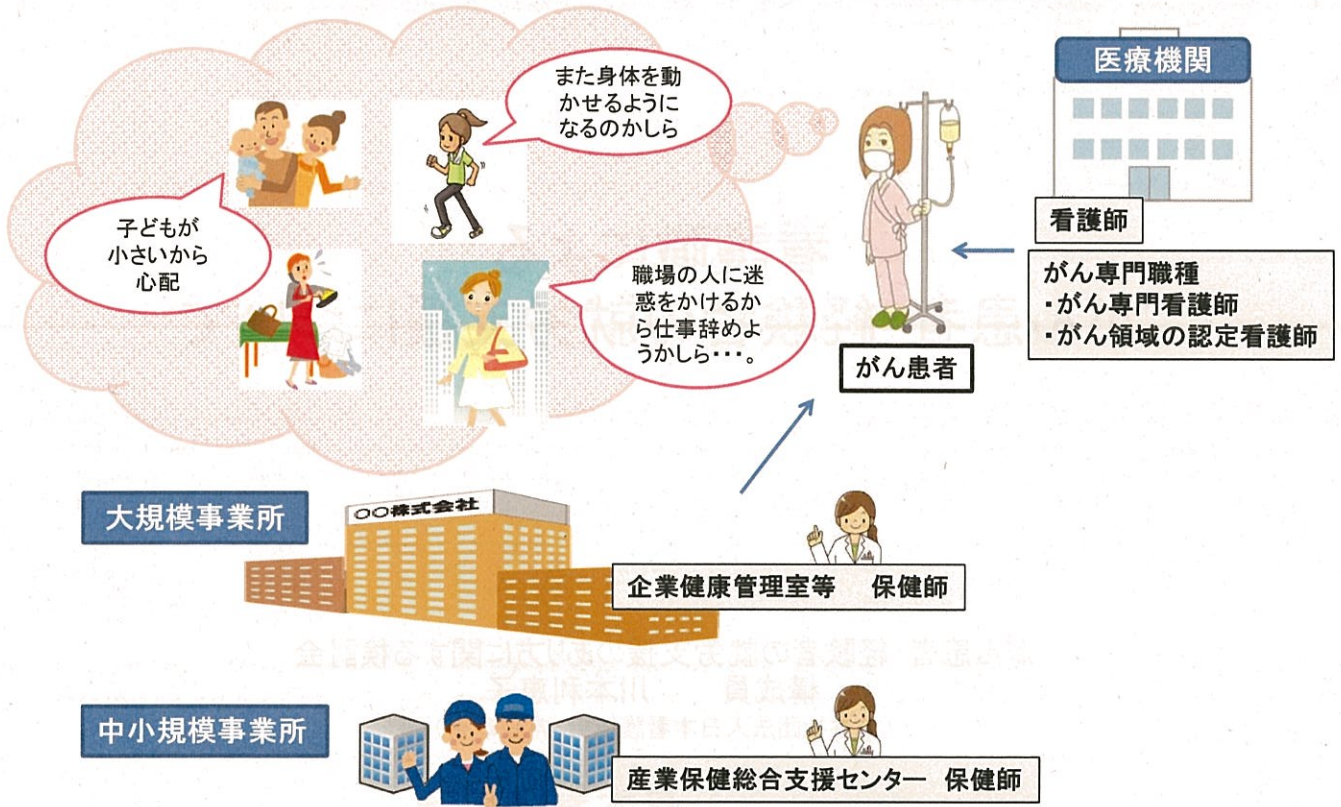
- 経済的困難
- 会社の制度・対応の問題
- 職場関係者とのコミュニケーション
- 医療側の問題
- 本人の心理的問題
- 本人の身体的問題



参考資料: 「治療と就労の両立に関するアンケート調査」結果報告書 2012年8月
 厚生労働省がん臨床研究事業「働くがん患者と家族に向けた包括的就業支援システムの構築に関する研究」班

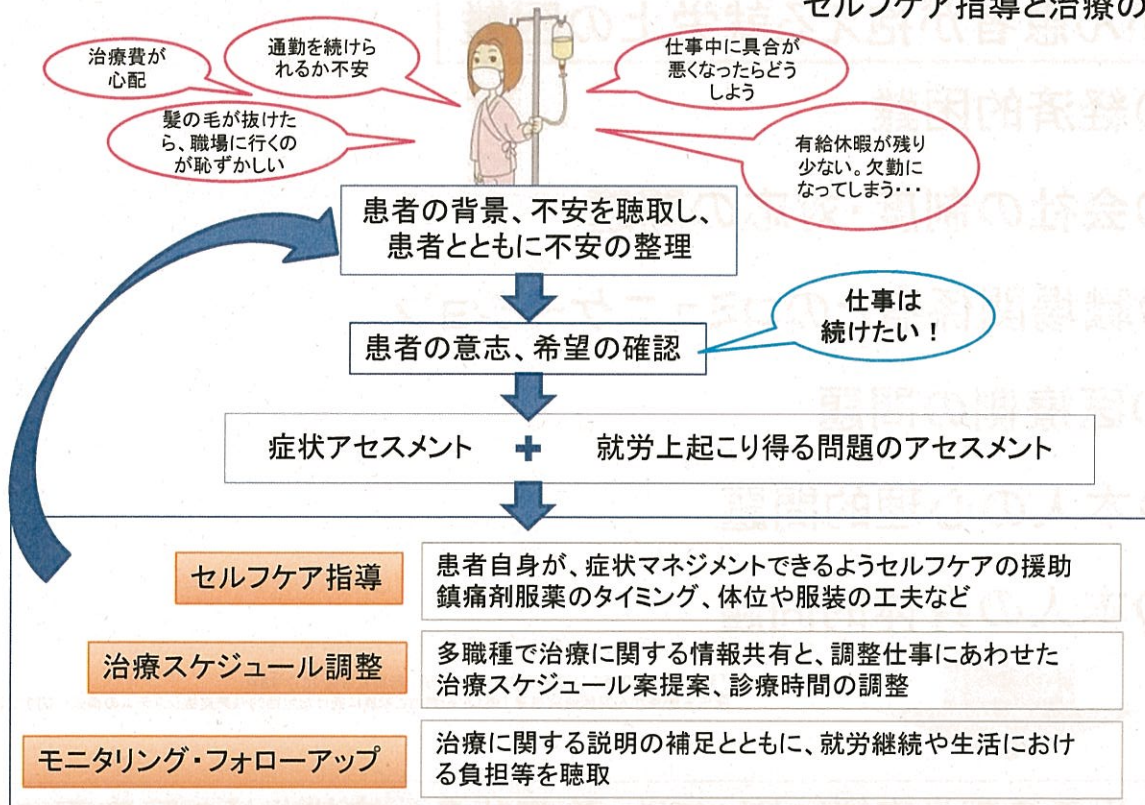
がん患者の就労支援においては、治療や身体症状などの医療面での問題に限らず、経済的・社会的な問題への対応・調整が求められる。

がん患者の就労とそれを支える看護職



看護職は、さまざまな場でもがん患者の就労支援に関わっている。

医療機関の看護師による支援 ~就労状況を踏まえたセルフケア指導と治療の調整~



医療機関では看護師が、がん患者が円滑に復職・就労継続できるよう、就労状況を踏まえた個別のセルフケア指導などを行っている。

産業保健師による支援

- 産業保健師は、がん患者の心身両面について医学的側面から個別アプローチを行う。
- また、産業医や人事労務担当者、就労部署、医療機関等の支援者・関係者間の情報整理および環境調整を行ない、円滑な復職・就労の継続等を支援する。



厚生省「治療と職業生活の両立等の支援に関する検討会報告書」平成24年8月8日

○保健師は、産業医以上に労働者への身近な相談相手としての立場を活かし、積極的に労働者本人と接触し、産業医や人事労務担当者、医療機関との連携を図ること。

○治療と職業生活の両立に関する相談に充分に対応できる機関がないことから、地域の保健機関と並んで、労働者及び管理監督者にとって身近な相談窓口としての役割を一層果たすこと。

4

がん患者の就労支援における課題

○医療機関の看護師における現状と課題

就労支援の基本的な知識が不十分

- ・医療機関の看護師は、診断時、治療開始時から患者に関わっているが、がん患者の就労支援の手段・相談先について基本的な知識・情報を十分に持ち合わせていない。
- ・そのため、早い段階でがん患者が抱える就労上の課題をキャッチし、解決を図れるような支援、担当部署・産業保健師等への橋渡しが十分にできていない。

※ 一部の医療機関では就労支援の意識を持ち、モデル的に看護師等への研修が始まっている。

また、患者自身が就労上の困難を解決できるよう院内チームでサポートする体制なども作られているケースがある。

○産業保健師の現状と課題

活動が多様

- ・職場内での配置部署や主な活動内容が一律でない。
- ・がん患者・経験者の職場復帰や復帰後の支援について、積極的な取り組みがなされる企業がある一方、普遍化された取り組みとはなっていない。

全ての企業に配置されていない

- ・法律等での、産業保健師の配置や届出の義務はなく、産業保健に従事する保健師の実数および活動実態の全容は把握がされていない。

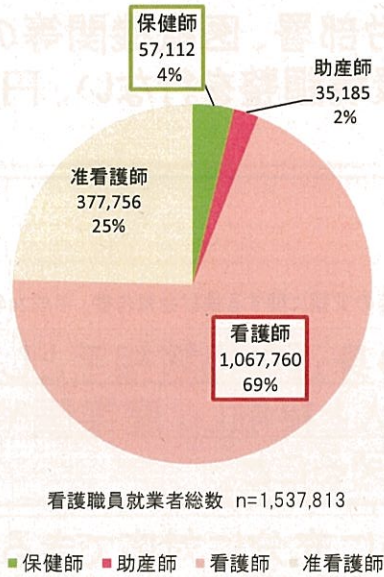
※ 特に中小規模事業所においては、配置がなされていない場合が多い。

○共通の課題

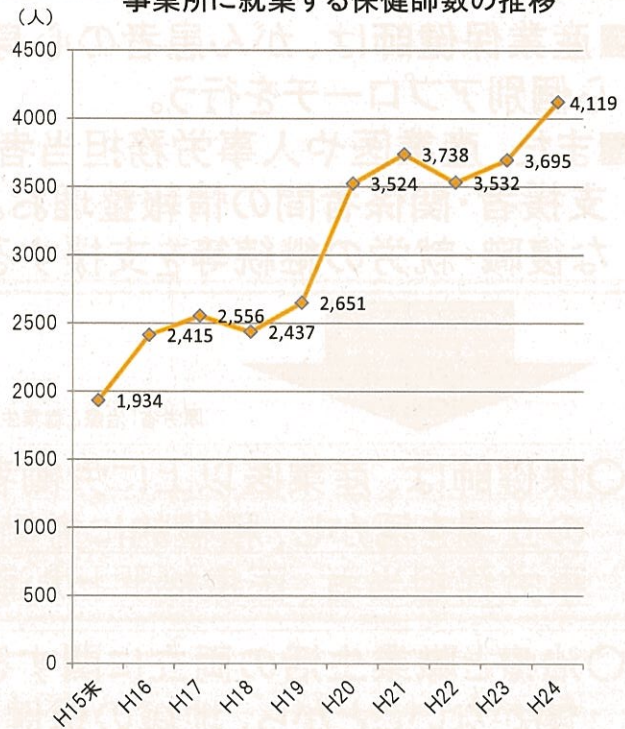
- ・医療機関とがん患者の就労支援にあたり情報収集や調整を図る産業保健師との連携の仕組みがない。

5

看護職員就業者数(人)



事業所に就業する保健師数の推移



平成24年時点で「事業所」に就業している保健師は4,119名で年々増加傾向にある。

出典：衛生行政報告例；厚生労働省

今後の対応策について

○がん医療に携わる看護師が就労支援に関する基本的な知識を獲得し、支援能力を高める。

- がんと診断された早い段階から就労を踏まえた治療・支援を行う。
- 看護師ががん患者の抱える就労上の課題をキャッチし、適切な相談先等への橋渡しを行う。

○産業保健師の活動実態を把握し、就労支援の充実をはかる。

- 就労状況を把握している最も身近な相談相手として、就労支援を積極的に行っていく支援体制を整備する。

○医療機関の看護師と産業保健師との連携を促進する。

- 好事例の応用の可能性や連携のあり方について検証を行い、有用な連携を推進する。